

SlackBot プログラムの報告書

2018/4/28

松田 陸斗

1 はじめに

本資料は、B4 新人研修の Ruby による SlackBot プログラムの作成の報告書である。本資料では、SlackBot プログラムの作成に関して、理解できなかった部分、作成できなかった機能、自主的に作成した機能を述べる。

2 理解できなかった部分

- (1) local から Slack.com にポストリクエストを送るとエラーが出る

3 作成できなかった機能

- (1) 認証を必要とする API の利用
OAuth 認証の設定がよくわからなかった。
- (2) 時報機能
heroku の無料プランのサーバでは、30 分アクセスがないとシャットダウンしてしまうため、cron などが使えない。

4 自主的に作成した機能

- (1) 天気を取得する機能
任意の場所の天気を取得する。場所の名前には、予め登録されてある名前を指定する必要がある。トリガーとなる言葉は”`場所`の天気”である。
- (2) ニュースを取得する機能
最新のニュースを任意数取得する。検索したい言葉をダブルクォーテーションで囲むと、この言葉に関するニュースを取得する。トリガーとなる言葉は、”ニュース”である。
- (3) クイズを出題する機能
コンピュータに関するクイズをランダムに出題する。トリガーとなる言葉は”クイズ”である。

pptファイルをPDFに変換しておくときmakeしたときに勝手にページごとにfigureとして読み込んでくれる。

図 1 よくわかる図その 1

5 章

5.1 節

5.1.1 項

章，節，および項の適切な名前を考える．

5.2 箇条書きの例

箇条書きを用いて分かりやすく表現する．

(1) 項目 1

(2) 項目 2

(A) 項目 A

(B) 項目 B

(3) 項目 3

(1) や (2) を別の文字に変えたい場合は，description を使用する．

(問題 1) (問題 1) が発生

(問題 2) (問題 2) が発生

5.3 図の挿入例

図を挿入する際は挿入する図を pdf に変換し，figs フォルダに入れる．また，使用する図のページに合わせて，project.mk の FIG_PAGES を変更する．挿入した図を図 1 に示す．図に対する説明を記載する．

表 1 作業時間の発生頻度

通番	作業時間 (分)	発生回数 (回)	累積割合 (%)
1	120 ~ 150	17	40
2	150 ~ 180	12	67
3	90 ~ 120	7	84
4	180 ~ 210	4	93
5	~ 90	2	98
6	210 ~	1	100

5.4 表の例

表を入れる際は過度に罫線を入れすぎないように注意する．表の例を表 1 に示す．表に対する説明を記載する．

5.5 参考文献の挿入例

参考文献を記載する際は bibtex を利用する．mybibdate.bib に参考文献の情報を記載する．たとえば，乃村先生の論文 [1] を参考文献として記載する．

6 おわりに

本資料では打ち合わせ資料のテンプレートを示した．また，図表の挿入例や参考文献の例を挙げた．今後は，このテンプレートを基に資料を作成する．

参考文献

- [1] Nomura, Y., Senzaki, R., Nakahara, D., Ushio, H., Kataoka, T. and Taniguchi, H.: Mint: Booting Multiple Linux Kernels on a Multicore Processor, *Proceedings of the 6th International Conference on Broadband, Wireless Computing, Communication and Applications (BWCCA2011)*, 6th International Conference on Broadband, Wireless Computing, Communication and Applications (BWCCA2011), pp. CD-ROM (2011).